

小川 拝

五戸総合病院に1ヶ月間地域研修実習に行かせて頂きました。思っていた以上に濃厚な1ヶ月を過ごさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。青森に行って良かったなあ、と心から思っております。

青森のうち、青森市、弘前市、八戸市は名前を聞いたことがあったのですが、五戸町は今まで耳にしたことがありませんでした。事前に五戸総合病院の場所を地図で確認しても、青森は大阪に比べ大変広い県であり、交通手段は何がいいのかや周りとの距離感がどんなものであるのかをあまり掴めず、もう行ってみるしかないなと腹をくくり出発日を迎えました。

初日、院長に初めてお会いした時は颯爽と若い先生が現れたので、まさか院長だとは思いませんでした。「ストーマ造設術執刀してみっか?」「カイザー執刀してみるか?」と、昨日まで面識も全くなかった私にすぐ心を開いてくださり様々な研修をさせようとして頂いたことです。思わず「いいんですか!やります!」と喜んで二つ返事で答え勉強に取り組みました。それからというものの様々な手技を経験させて頂き、0であった経験を1にできたのは大きかったと思います。

困ったことといえば、青森で研修していた先輩に聞いていた通り、言葉の壁がやはりありました。関西弁の「しんどい」という”つらい”を表す言葉が伝わらないことを始め、私のふと出る言葉が患者さんに伝わらないことがありました。逆に、患者さんの話を聞いているときに、まるで外国語を聞いているかのような気分になることも多く苦勞しました。看護師さんに通訳して頂くことも多かったです。次第にお互いが気を遣いあいアイコンタクト、ボディランゲージを使いながら、標準語に置き換えて話すようになり意志疎通も少しスムーズになりました。言葉の壁があっても、お互いがお互いを理解しようとする心がけが大切であると実感しました。

そして訪問診療や施設への診療に行ったり、検診のレントゲン画像をよむ等、普段の研修では経験できないことにも携わることができました。患者さんが高齢の方が多く、電車やバスを含めた交通機関が少し不便な地域では青森県に限らず訪問診療が必要なのだと思います。また実際訪問診療や施設への診療にしてみると、バイタルをとり、問診及び聴診をするといった基本的な事をするだけでとても感謝をして頂きました。必要とされることの喜びと医師という仕事に従事したいと思った自分の原点を思い出せた気がします。

院長先生は外科の専門医でしたが、外科診療だけでなく、内科治療、訪問診療、乳がん検診、胃及び大腸カメラ、褥瘡診察と様々なことをされていました。「必要とされているから、する。」そういったスタンスなのだと思います。

この青森県での地域研修を通して、地域医療とは何だろうという事を私なりに考えました。地域医療というとなんとなく過疎地や田舎での医療を思い浮かべることが多いかもしれませんが。少なくとも私はそう思っていたところがありました。しかし、研修を通して地域医療というのは、どの地域であれその地域が必要としている医療を提

供することなのだと思います。

この経験を生かして、患者さんに必要とされる医師となれるように頑張っていきたいと思います。

こういった機会を作っていただいた院長先生をはじめ医師の先生方、事務さん、看護師さんには本当に感謝しております。ありがとうございました。